



発行責任者：羽生 英之

TOP MESSAGE

GM通信 2026年今年もどうぞよろしくお願ひいたします

2026年がスタートしました。不透明感をいたるところで感じますよね。世界も日本も身の回りも。アメリカのトランプ政権はグリーンランドの領有を目指すと公言し、日本の高石総理は衆議院の解散を決めました。ウクライナ戦争も終結の道筋が見えず、昨今の物価高も沈静化には程遠く、忘れかけていた金利の上昇も進んでいます。世界がそして日本がどのような方向に進めばいいのかを論ずるにはあまりにも不確定要素が多すぎるようになります。子供たちにどのような道筋を示せばいいのかを考えると頭が痛くなります。

年初にあたり、今回は自分のことを書いてみようかなと思います。文字にするとすべてを表現することが難しいので誤解されてしまうリスクもあるとは思いますが、保護者の方々とお話をすると私が何を考えているのかを知ることができて良かったと言って下さる方もいらっしゃるので、今回は敢えてチャレンジしようと思います。

私は今年で62歳を迎えます。歳を重ねて思うことは「叱ってくれる人がいなくなってきたな。」ということです。JR東日本に在職中はまだ多くの上司や先輩がいましたし、Jリーグに転職してからも同様でした。今思うと2010年に東京ヴェルディの経営者になったあたりから少しずつ面と向かって叱ってくれる人が減ってしまったと感じます。

仕事上の付き合いのある人は私を代表取締役羽生英之として見ます。あたりまえのことですが、こうなってしまうと多くの人が私を一人の人間としてではなく、代表取締役として接することになります。全ての人と腹を割って話をするというわけにはいかないので、時には仕事上の付き合いしかない人たちに美辞麗句を並べられてその状況に辟易してしまうことも少なからずありました。もちろんJリーグの事務局長時代にも同様のことはありましたが、当時はまだ私も若かったので、役職に関わらず私にとって耳が痛いと思うようなことを言ってくれる人は一定程度存在していました。先人は「実るほど首を垂れる稻穂かな。」と詠ましたが、本当にそうだなと思います。30代40代の自分を振り返ってみると恥ずかしくなるようなことが多々ありました。自分がJリーグを仕切っていると勘違いしていた時期もあったのではないかと思います。ただその時には、初代Jリーグチェアマンの川淵三郎さんや当時Jリーグ専務理事だった木ノ本興三さんによく説教されました。新聞記者やテレビ関係の先輩方にも多くの忠告をいただきました。当時はうるさいなあと少なからず思っていたことも事実ですが、私にとって有益だったことは言うまでもありません。役職で見られるのではなく、ひとりの人間として叱ってもらうことがどれほどありがたく、自分にとって多くの金言があったのかをこの歳になるとようやく理解できます。仕事上で多くの人と知り合い、多くの知識を吸収することも重要ですが、それ以上に、自分は何者でもないことを教えてくれて、耳障りの悪いことを率直に言ってくれる人の価値がどれほど高いかを思い知らされている昨今です。

特に川淵さんには「お前の口からできませんという言葉は聞きたくない。」「立ち止まるな。走りながら考えろ。」と。木之本さんからは「迷った時には、日本のサッカーにとって良いと思う方を選択しろ。」と言われ続けました。これらが私の行動規範になり行動指針になりました。この言葉が今の私を形作っていると言ってもいいと思います。

元々私が就職活動をしていた時は、「パイオニアになりたい。」が私の気持ちの大きな部分を占めていました。これは学生時代に読んだ司馬遼太郎の「龍馬が行く」に大きく感化されていたからだと思います。ですから国鉄から民営化したJR東日本を就職先として選択したのはその年の採用が民営化後初めてで、私たちが同社の一期生だったというのが大きかったですし、Jリーグについてもプロリーグ設立からその事業に携わったということが転職を決めた非常に大切なポイントでした。そして、破綻しかけていた東京ヴェルディを立て直す道に進もうと決めたのは、前述した木之本さんの言葉があったからです。ほとんど迷うことなくいばらの道を行くことを決めました。

サッカー界に長くいて痛感したのは、どこまで行っても、どんな状況でも最も大切なのはサッカーをする選手だということです。いわゆる「プレーヤーズファースト」ですね。私の今の仕事に置き換えると「子供たちファースト」ということです。この軸さえぶれなければ大きな間違いは犯さなくて済むと思っています。ですから保護者の方と意見の相違があっても必ず歩み寄れると確信しています。なぜならば保護者も私も「子供たちファースト」という点は同じだからです。ただ、「我が子ファースト」の方とは意見の相違が出てくることは致し方ないと思います。

まだ若くて人生の終わりなど全く意識する必要のなかった時には、多くの人と知り合い、多くの知識と人脈を手に入れることができ私にとっての最重要事項でしたが、キャリアの終わりを意識せざるを得ないこの歳になると考え方も変わってきます。今は限られた時間をどうやって有効に使うかとか、どう社会に還元するかについて考えることが多いです。ですから今は多くの人と付き合うことは時間的な制約があるのでとてもできません。付き合う人の数を限定することがどうしても必要です。今その限定作業に使っているのは「私のことをリスペクトしてくれているか。」という物差しです。自分のことを尊重してくれない人を尊重するような悠長な時間は私に残されません。多少傲慢かなとも思いますが、私のキャリアの残された時間が少ない以上この物差しを使わざるを得ないです。

バディ企画研究所の鈴木社長とは20年来の付き合いになりますが、彼は私と私のキャリアについて最大限のリスペクトをしてくれています。ですから私も最大限のリスペクトを持って彼に接しているつもりです。そういう相手との仕事は楽しいものですね。

まだ書き足りませんが今回はこのくらいでやめておきます。また機会があれば自分のことを書かせていただきます。

SCHEDULE

【世田谷校】2月の主な予定

- 2月2日 (月) 農業実習
- 2月9日 (月) 金融授業
- 2月14日 (土) プログラミング発表会
- 2月17日 (火) 金融授業

自然科学

木の葉化石を取り出そう！
ハンマーとタガネを使って植物の化石を取り出し、図鑑で種類を調べましょう！今回の化石は栃木県にある約30万年前に湖の底に積もったものです。地層の線に合わせてタガネをいれると上手に割る事が出来ます。



【有明校】2月の主な予定

- 2月2日 (月) 金融授業
- 2月9日 (月) 農業実習
- 2月14日 (土) プログラミング発表会
- 2月16日 (月) 金融授業

農業実習

ひんやり冬の不思議探検隊(冬の自然と土のつながり)
冬の畑に入り、芽キャベツや人参、ブロッコリーなどを観察。土に触れ、“冷たい”“でも中はちがうかも”と感じ取る姿や土から虫が出てきて思わずはしゃぐ場面もありました。

香りあのグループではきんかん・ローズマリー・大根の葉を目を使わずに嗅ぎ“甘い”“すっぱい”“生ごみ”みたいな匂いがする”日常の記憶と結びつけた言葉が自然に出てきました。



バディグローバルスクールHP

随時、見学・体験を受け付けております。
お気軽にお問合せ下さい

TEL:03-5942-1830



@BUDDY.GLOBAL.SCHOOL